

る。今回、信ぴょう性が薄い記事を取り消すのは当然だし、対応が遅れたことと併せておわびしなければならぬ。

検証では記事を書いた元記者や韓国の関係者を含めて話を聞いた。他社が取り消したから北海道新聞もすぐ取り消すとはならない。ソウルや済州島で、当時のことを知っている可能性のある人、学者や元外交官、マスコミ関係者らと会うことを重ね、その結果を整理して、どう判断するか検討した。こうしたことに予想以上に時間がかかってしまった。秋になり、ある程度めどが立ってから、11月半ばに紙面化することを目指して準備を始めた。

11月17日に取り消しとおわびの特集が掲載されたから、電話やメールで読者から意見を頂戴した。多くは、おしかりの声だった。今回、報道機関として大変重い判断をした。残念という言葉以上に重いものを痛感している。情報を何重にも点検して報じるという報道の基本動作を徹底できるように、社員研修の場を設けるなどして、もう一度組み立て直していきたい。

坂口唯彦委員 批判を覚悟で「吉田証言」報道の問題を取り上げた点は潔く、評価できる。だが、見開き2ページの特集を読んだら、見開き2ページの特集を

があつてしかるべきだった。道新は社会の問題に鋭い批判精神を発揮しているのに、自らの問題にペンを鈍らせたのは大変残念だ。真実に誠実であることが新聞の信頼性を高めることにつながると思う。

江口尚文委員 わたしもいろいろインタビューして論文を書くことが多い。事前に書物やデータを調べておき、下調べと話し合い違いがあれば疑うが、そうでない場合は信用せざるを得ないところがある。ただ、当時の記者が本当に証言を真実だと思つて書いたのか、特集記事には説明がなかった。証言に疑義があつたのになぜほつたらかしたのか。朝日新聞の記事取り消しから3カ月以上かかったプロセスについても説明がなければ。

曾根一委員 特集記事は弁明に近い言い訳と感じた。特集で書いた内容は事実かもしれないが、潔い印象を与えられる表現があつたら良かったと思う。吉田証言の信ぴょう性を、最初に取材した時点できちっと検証しなかつたのだろうか。人を信用するのは大事だが、自分の目で見て確認することが必要だ。さらに必要なのは、北海道新聞が慰安婦全体の問題をどうとらえているか伝えることだ。いま戦

記事を読んで、どうして今になってと思った。どういう経緯だったのか、なぜ今になって取り消すことになったのか。そういう疑問を持ったが、編集局長の説明で分かった。ある調査で新聞の信頼感が「低くなった」と答えた人が昨年の5・6%から10・2%に増えたと10月に報じられていた。今回、「吉田証言」報道の取り消し問題がこの委員会のテーマに取り上げられ、道新の報道への取り組み姿勢が伝わったのは良かった。新聞に限られた時間で正確に伝えなければならぬ仕事だが、読者の信頼を裏切らない紙面作りをお願いしたい。

加藤編集局長 一つ一つ重い言葉をいただいた。説明を補足したい。最初の記事に関して、指摘されたような他社の後追いをしたということではなかった。吉田氏の証言は記事掲載のかなり前からあつて、著書もあつて、ある程度知られていた。こういう人がいるということだけで会いに行き、記事にした。

証言内容に早い段階で疑義が示されていたのに記事をなぜそのままにしたかだが、92年の日韓首脳会談の前後から政府側による軍の関与を認める発言や調査結果が出た。政府がこういう形で言及しているのだから

も20年以上の歴史がある。検証記事だけでこの問題を理解するのは容易でない。どういう歴史があり、何が論点になっているかを付け加え、全体像として参考にしてもらえればと考えた。

検証、取り消しまで長い時間がかかった。記事掲載から20年以上がたつており、現場は外国でもあり、関係者に当たつて検証する作業は簡単でなかった。調べた内容を自分たちで整理するためにも、一定の議論の時間が必要だった。厳しいご批判は当然だ。

戦争に対しては多様なものの見方、価値観、論争がある。来年の戦後70年に向けて、歴史に真摯に向き合っていく。そうして紙面展開していく責任があると思つている。

大島委員 この件について社内でも議論をしてきたのか。これからするののか。

加藤編集局長 記事取り消しとおわびをした11月17日の直前となったが、緊急の部長会で説明した。掲載当日は、編集局の社員に対して2回にわたって説明の場を設けた。部長を通して各支社の社員にも説明を進めていくところだ。いろんな意見が出ており、それに応えていくことを重ねたい。

折谷委員 うそだと分かつていて記事を書く人は道新にはいないと思つている。限られた情報源からしか情報を得られない人もいると思うので、今日この委員会であつた質疑内容をきちんとして紙面化することで、道新の姿勢が伝わるのではないかと。

今回の「読者と道新委員会」で、委員の皆さまから厳しいご批判とおしかりの言

江口委員 道新の記者は吉田